



留学応援ソング「トビタテ！フォーチュンクッキー」制作発表

この留学応援ソングは、平成25年12月15日、早稲田大学で開催された「第1回 Go Global Japan Expo」のイベント内で、AKB48メンバーのスペシャルユニットと、公募で選ばれた学生バックダンサー30名によりステージ上で披露されました。

その際、AKB48のメンバーが、会場に振り付けを指導し、約1,000人の高校生たちを巻き込んで同留学応援ソングを歌いながら踊りました。

④留学しよう！トークライブ～活躍のフィールドは世界だ！～

在日米国大使館と共催で、留学の魅力語るイベント「留学しよう！トークライブ～活躍のフィールドは世界だ！」を、平成26年3月28日、明治大学にて開催しました。過去15年間に、米国に留学する日本人学生の数は57%減少し、1997から1998年に4万7,000人超であったものが2011から2012年には2万人を割り込む状況となっています。このトークライブでは、駐日米国大使キャロライン・ケネディ氏が、アメリカへの留学の魅力やアメリカの教育事情について語った後、下村文部科学大臣、ケネディ氏、学生によるトークセッションを行いました。エンディングではジャカルタで活躍中のアイドルグループJKT48と学生ダンサーによるパフォーマンスも行いました。



下村文部科学大臣とキャロラインケネディ氏によるトークセッション

(3) ウェブを活用した施策

広報イベントのメディア露出等により留学に関心を持った若者や保護者等に、留学に対するより具体的なイメージを持ってもらうためのキャンペーンサイトを開設^{*3}し、留学体験談や留学までの流れ、CMやテレビ番組等様々な留学応援コンテンツを掲載しました。

①キャンペーンサイトの運用

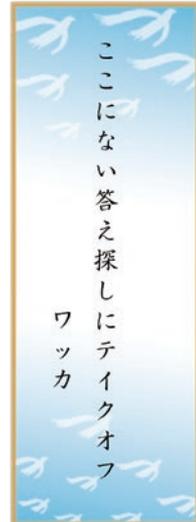
キャンペーンサイトには、留学体験談、留学までの流れのほか、海外の大学に進学したい人のための海外大学情報検索サイトや、国内大学入学後に短期留学したいという学生のための留学プログラム検索サイトを掲載しました。また、経済界、教育・科学技術分野、スポーツ分野、文化・芸術分野等で活躍する著名な100名以上の賛同人の協力の下、自身の体験や留学への思い、応援メッセージを書いてもらい、写真とともにメッセージ色紙を掲載^{*4}しました。

*3 <http://www.mext.go.jp/ryugaku>

*4 <http://www.mext.go.jp/ryugaku/supporter.html>

② SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用

留学体験談を共有することを目的としたFacebook^{*5}や、留学に関するQ&Aを掲載するTwitter^{*6}の運用により、留学に興味を持った若者が、留学をより具体的にイメージできる広報施策を実施しました。また、留学へ広く共感を得るメッセージを発信すると同時に、留学を身近に感じてもらう一助とする施策として、留学応援川柳の募集を5週間にわたり5回行い毎週の優秀作品と最終的な文部科学大臣賞の受賞作品をFacebookに掲載しました^{*7}。



留学応援川柳
文部科学大臣賞受賞作品

③ プロモーションビデオの制作

賛同人の太田雄貴さん（フェンシング選手）、滝川クリステルさん（フリーアナウンサー）、野口聡一（宇宙飛行士）さんの協力により、留学を応援するプロモーションビデオを制作しました。同ビデオは、インターネット上のYouTubeサイト、羽田空港第1・第2・国際線各ターミナル、大学のデジタルサイネージ（電子看板）での放映に加え、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社の協力により両社の機内放送を実施しました。



プロモーションビデオ 太田選手編



プロモーションビデオ 滝川クリステル編

④ TV番組の制作

留学ミニ番組「AKB48たかみな編集長の！トビタテ！留学マニュアル」を制作し、平成26年2月から、BS放送にて全6回の放送を行いました。番組の中で作成した「留学マニュアル」や放送映像はキャンペーンサイトに掲載^{*8}しています。



留学ミニ番組のロゴ



留学ミニ番組 第4回のインタビューの様子

⑤ ミュージックビデオの制作

前述の留学応援ソング「トビタテ！フォーチュンクッキー」制作発表時の映像を編集し、ミュー

*5 参照：<https://www.facebook.com/ryugakujapan>

*6 参照：<https://twitter.com/ryugakujapan>

*7 参照：<http://www.mext.go.jp/ryugaku/senryu.html>

*8 参照：<http://www.mext.go.jp/ryugaku/manual.html>

ジックビデオ「トビタテ！フォーチュンクッキー 留学JAPANバージョン」を制作しました。制作に当たっては、制作発表時のAKB48のパフォーマンス映像のほか、グローバル人材育成推進事業（GGJ）採択大学及びグローバル30採択大学を合計した47大学の学生、海外留学中の学生（公募）、文部科学大臣ほか文部科学省留学施策関係局課職員によるダンスパフォーマンス映像を1曲に編集しました。

平成26年2月14日にインターネット上のYouTubeサイトに掲載した本ミュージックビデオ^{*9}は、公開3日で再生回数が37万回を超えるなど、大きな反響を呼びました。



「トビタテ！フォーチュンクッキー」ミュージックビデオ



同ビデオでの大臣ユニットダンスパフォーマンス

⑥留学促進CM制作

留学応援ソング「トビタテ！フォーチュンクッキー」の歌詞をアイドルグループAKB48のメンバーらが歌って、留学を応援する留学応援CM^{*10}を制作し、YouTubeサイトで公開するとともに、大学のデジタルサイネージ（電子看板）での放送も実施しました。YouTubeでは、公開3日で再生回数が10万回を超え話題となりました。



トビタテ！留学JAPANキャンペーンCM
"AKB48 アカベラ"編バナー

（4）留学促進キャンペーンの更なる展開

社会のグローバル化、高度化が急速に進むとともに、世界のどの国よりも速いスピードで少子高齢化が進行する我が国において、引き続き豊かさを享受していくためには、いかに国民一人一人が能力を発揮し、付加価値を高めていけるかが鍵を握っています。

そのためには、日本の若者が、広い世界の中で自己研鑽^{けんさん}を積み、日本と世界で活躍できるような人材として育っていくことが重要です。

折しも、2020年に夏季オリンピック・パラリンピック競技大会が日本で開催されることになりました。この時期をチャンスと捉え、2020年を大きな節目として、日本全体で若者や日本の「トビタテ」の機運を高めるために、引き続きキャンペーンを展開します。

第5節 日本発イノベーションの加速・発信

世界で最もイノベーションに適した国を目指す我が国として、2020年を、新たな成長に向かう契機の年として、産学官が一丸となって、日本発イノベーションを加速し、その成果を世界へ積極的に発信していくことが重要です。そのために、科学技術の観点からどのような寄与があり得るのか、第1節のコラムで紹介した「夢ビジョン2020」において提案された具体案を紹介します。

*9 参照：<http://www.mext.go.jp/ryugaku/song.html>

*10 参照：<http://www.mext.go.jp/ryugaku/cm.html>

(1) 社会を変革する“夢”のある研究開発の促進

第1節で紹介した「夢ビジョン2020」において提案されているように、「2020年に実現したい夢・シェアしたい価値観」があり、「直面する社会的課題」にも対応した、社会を変革する研究開発課題を抽出し、研究開発を加速していくことが重要です。

我が国では、昭和46年以来、中長期の科学技術の発展に関する大規模な予測調査を継続的に実施しており、平成22年に科学技術政策研究所が9回目に当たる科学技術予測調査を公表しました。この調査の一部として、科学技術の発展動向に関する専門的見解を得るためのアンケート調査を実施し、情報・メディア・コンテンツや医療・健康等12分野、計832の科学技術課題の実現可能性や重要性等に関して、2,900名の専門家から回答を得ました。この結果を基に、2020年頃までに技術的な見通しが立つと予測された544の科学技術課題について、現在あるいは今後想定される社会課題を念頭にグループ化を行い、2020（平成32）年およびその先の社会実装に向けて取組を加速させるべきと考えられる14の研究開発テーマを抽出しています。「夢ビジョン2020」では、その抽出結果を参照しながら、図のとおり、具体的課題を例示しています。

現在、文部科学省では、2020年に向け、関係府省や東京都等とも連携しながら、産業界等との意見交換を通じ、加速すべき研究開発課題や加速方策の検討を進めていきます。

2020年頃の実現が予測された科学技術（インクルーシブ社会の例）

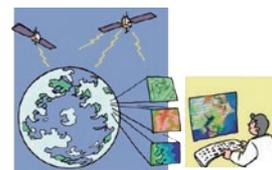
| 科学技術 | 技術的 実現時期 | 社会的 実現時期 |
|---|-------------|-------------|
| 高齢者、身体障害者が情報ネットワークに参加しやすい情報端末機器及びソフトウェア | 2014 | 2019 |
| ものづくりの過程において、高齢者や女性の特性に配慮してその労働をサポートするインテリジェント生産システム | 2017 | 2024 |
| 加齢による機能低下（動体視力、判断時間、誤判断リスク）などを織り込んだ道路構造、標識、信号などの普及 | 2017 | 2023 |
| 医療と介護のシームレスな連携に基づいた地域医療システム化技術 | 2017 | 2022 |
| 病気等による意思疎通手段障害のある人に対する脳活動等を利用したコミュニケーション支援技術 | 2019 | 2027 |
| 高齢者が単独で安心して door-to-door の移動ができる、地区から広域に至るシームレスな交通システム | 2020 | 2030 |
| 遠隔地にいる高齢者や軽度障害者に対して、家族等の遠隔操作により生活支援を安全に行うことができる知能ロボット技術 | 2020 | 2028 |
| 感覚機能を備えた義手・義足 | 2020 | 2028 |
| 言語だけでなく文化的背景や地名人名などの固有名詞なども自動学習し機械翻訳できるシステム | 2020 | 2029 |
| 傷病、年齢、心身障害等、さまざまな理由により社会に参加できない人の社会参加を可能にするコミュニケーションツールとしての遠隔操作型ヒューマノイドロボット技術 | 2021 | 2030 |

研究開発テーマの例

高精度な自然災害観測・予測システム

気象・災害シミュレーションのデータ同化も含め、被害軽減のための高精度な観測システムが構築される。

| 科学技術の例 | 技術的 実現 | 社会的 実現 |
|---|-----------|-----------|
| 日本海溝から三陸沖・東北地方東地域、南海トラフから東海・東南海・四国沖地域周辺で、過去においてM6以上の地震震源域周辺50km以内の複数地点で海底下1000m以上の地殻深部の歪力変動を測定し、地震予測の精度向上を目的とした地殻活動モニタリングシステム | 2020 | 2028 |
| 我が国の陸域並びに海岸から20km以内の近海域において、雲量と降水系の結合モデリングの精緻化と常時観測技術が結合した防災を目的とする総合的水管理システム | 2019 | 2027 |
| 陸海シームレスの観測データ整備 | 2018 | 2026 |



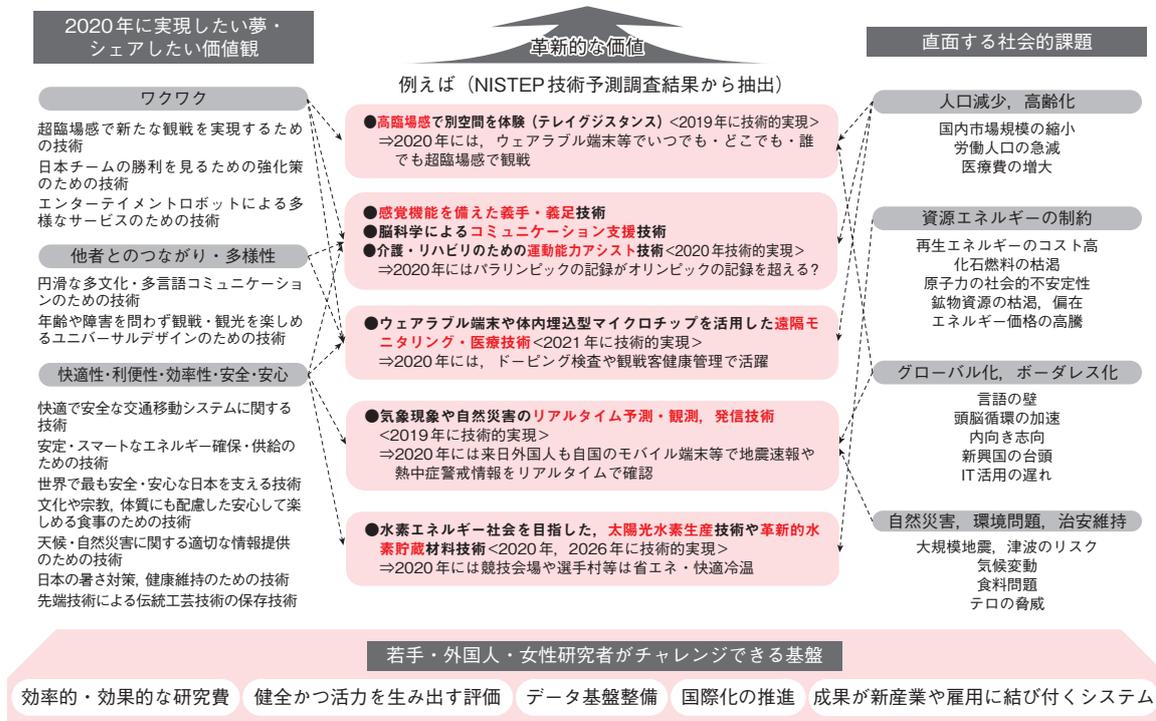
食と健康

日常生活における諸活動を通じて健康を保ち、質の高い生活を送るための技術やサービスが提供される。



| 科学技術の例 | 技術実現 | 社会実現 |
|--|------|------|
| 人の日常の運動能力を退化させることなく、かつ必要時に運動能力をアシストできるアクチュエータ技術 | 2017 | 2023 |
| 人体に埋め込まれ、体温や血流などの生体エネルギーを利用して半永久的に動き続け、健康状態のモニターやペースメーカーのような生体機能補助を行うことができる医療チップ | 2020 | 2028 |

『オリンピックの感動に触れる。私が変わる。社会が変わる。』



(2) 日本の科学技術の魅力を世界へ発信

2020年は、我が国の科学技術力を世界に積極的に発信していく上で良い機会となります。

文部科学省においては、「夢ビジョン2020」の公表後直ちに、我が国の先端科学技術の魅力を世界に発信するため、「Research in Japan」キャンペーンとして、2014年1月の総理訪印にあわせて行われた日印科学技術セミナーや2014年2月 AAAS（全米科学技術振興協会）年次総会などの国際的なイベントにおいて、リーフレットの配布やジャパンプースの出展を行うとともに、文部科学省ウェブサイト上の充実などの取組を実施しております。

また、2020年に向けて我が国への関心が高まる過程で、競技大会会場の近隣に位置する国立科学博物館（上野）、科学技術館（北の丸）、日本科学未来館（台場）には、国内外から多くの人が訪れる可能性が高いと考えられます。

このため、「夢ビジョン2020」でも提案されているとおり、今後、国内のサイエンス・ミュージアムや大学、企業等関係機関から成るネットワーク組織を形成し、デザイナー等と一緒にこれまでにない新しい展示方法の開発を行いながら、日本の最先端科学技術発信のためのコンテンツの製作、国内外のミュージアムでの巡回展示、2020年の特別企画展開催など、より効果的で戦略的な発信を組織連携により行うことを検討していきます。

また、2016（平成28）年の国際地学オリンピック、2022（平成34）年の国際物理オリンピックの日本開催が決定するなど、国際科学オリンピックの2020年前後の日本開催に向けた検討が進められています。

Research in JAPAN

Japan can be your next destination. Many opportunities are open to you. Enjoy your "cool" science life in Japan.

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan

Message from the Minister



H. Shimomura

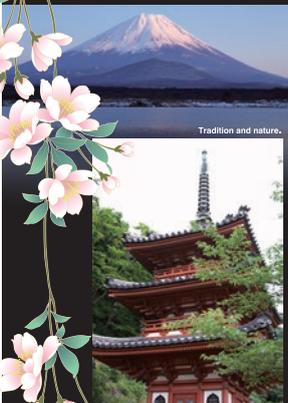
Hakubun Shimomura
Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Minister in charge of Education Rebuilding
Minister in charge of the Tokyo Olympic and Paralympic Games

Japan welcomes creative researchers from around the world. After Tokyo received the honor of hosting the 2020 Olympic and Paralympic Games, I launched the Japan Vision 2020 initiative for reforming Japanese society in line with the internationalism of the Olympic movement. Based on this Vision, the science community in Japan will become more internationalized and a more attractive place for top-notch persons to carry out research than ever before. Innovate with us for a better future! See you in Japan.

Robot Suit HAL © © Prof. Santai University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc.



Tradition and nature.



Japan is waiting for YOU!!

Why not Japan?

One of the top science countries!

Japan provides you with unique research and career opportunities because it is one of the top science countries in the world.

No. of Nobel Prize winners (2001-2012): 2nd in the world

No. of papers (2004-2006): 2nd in the world

Enjoy a safe & cool life!

Peaceful and high-quality daily life in Japan will help you to devote yourself to research activities.

Crime per capita (2005): 2nd lowest among OECD countries

GDP per capita (2012): USD 46,707

Interface with cutting-edge industry!

Working with cutting-edge industries will inspire you.

No. of patent grants (2012): 1st in the world

UNIDO CIP (competitive industrial performance) index (2010): 1st in the world

Your gateway to a growing Asia!

If you are interested in the dynamic Asia, your experience in Japan, the gateway to Asia, will greatly benefit you.

Research in JAPAN

Postdoctoral Fellowships...

Outstanding young researchers are invited to Japan for 1-2 years to conduct joint research under the guidance of their Japanese host researchers.

Public research institutes and universities...

World Premier International Research Center Initiative (WPI):

Launched in 2007, this initiative designates 9 centers to create open research platforms that attract the world's best brains, and where the primary operational language is English.

RIKEN:

Japan's premier research organization for basic and applied research. Since its foundation in 1917, RIKEN has been building global networks and seeking global talent.

Tsukuba Science City:

The largest cluster of science and technology city including about 30% of all national research institutes in Japan (e.g. NIMS). It is also a beautiful cosmopolitan city with a lot of green.

JSPS (Japan Society for the Promotion of Science):

JSPS supports academic research activities and carries out a wide range of international programs, including several fellowships for inviting overseas researchers to Japan.

JST (Japan Science and Technology Agency):

From knowledge creation, the wellspring of innovation, to ensuring that the fruits of research are shared with society and citizens. Series of funding programs are open to the researchers.

And in other institutes...

Academic Posts are Open to You

Contact Points: "Research in JAPAN" website

www.mext.go.jp/researchinjapan

Related info for students: Gateway to "Study in JAPAN"

www.g-studyinjapan.jasso.go.jp

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan

Cool science Life in Japan

Dr. Petros Sofronis



Director, International Institute for Carbon-Neutral Energy Research (FCNER), Kyushu U, Japan / University of Illinois at Urbana-Champaign, USA

My primary impression of the research environment is that laboratories in Japan are some of the best -maintained, -equipped, and -funded laboratories in the world.

Also, new research initiatives on key and future research concepts, all of which seem to be characterized by longevity of funding has been constantly undertaken.

Universities are the places that advance and encourage international culture and engagement, which result in many synergistic activities in a wide variety of research fields.

Regarding the advancement of top research technology, I would say that, unquestionably, Japan is a world leader in the field of my research.

Dr. Cevayir Coban

Principal Investigator / Associate Professor Immunology Frontier Research Center (IFReC), Osaka University, JAPAN



I've moved to Japan ten years ago, not for personal reasons, but to work

with a world-leading immunologist, Prof. Shizuo Akira. Since then, my scientific career unexpectedly developed in Japan, I stayed far longer than I planned.

I recommend young scientists to follow their scientific interests, and choose best place to pursue their interest.

If so, Japan is not an exceptional country to others by providing outstanding opportunities.

Dr. Samuel Sánchez



Research Group Leader, Max Planck Institute for Intelligent Systems, Germany (EX-NIMS ICYS-MANA fellow)

Being a scientist in Japan has boosted my scientific career, there is no doubt about it.

I found a very friendly, polite and professional staff that made my -and my family- daily life comfortable and safe.

The top-class facilities are simply impressive. The working atmosphere was exceptional; surrounded by excellent scientists from all over the world in a melting pot with the best resources scientists can imagine.

Japan has been a trampoline for me to find a leading position in prestigious research institutes in Germany. But also... a cultural experience that I will always remember!

Dr. Surhud & Anupreeta More



PostDoctoral Researcher/JSPS Fellow, Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe (Kavli IPMU), The University of Tokyo, JAPAN

We moved as a couple to Japan about a year ago. Japan presented a wonderful opportunity for both of us to advance our careers and pursue our research interests, the field of astrophysics and cosmology.

We had our doubts before moving to a country where we had no working knowledge of the language, but the friendly nature of Japanese people and in particular, the administration and support staff at Kavli IPMU, helped us to make the transition with ease. With their help in sorting day-to-day matters whenever they arise, we can focus on our research. We are glad that our baby angel was born in Japan.

You can do it in JAPAN!